

豊橋技術科学大学の新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動基準(2020.05.19改定・抜粋)

2020年5月20日現在

レベル	授業	研究室等における学生との教育研究活動 (系、研究所、センター)	教員個人の研究活動 研究所、センターの活動 (左記除く)	事務職員の業務	課外活動	学内会議	出張等	施設利用・構内入構
2 (中度警戒) 6/1~	<p>●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、授業の実施 ・遠隔授業の積極的利用 ・対面授業の制限 (50人未満) ・演習・実習の制限 (50人未満)</p> <p>*対面授業は県外からの移動者の状況に対応して開始(6/15以降の開始)</p> <p>&lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙A参照)</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続</p> <p>●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。</p> <p>・研究室所属学部学生については、研究室責任者(教員)の判断とする。</p> <p>・なお、教員・研究員、博士・修士学生は特に制限はなしとする。</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B参照)</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続</p> <p>●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B参照)</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・一居室での人数を減らすなど新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、必要な業務の継続 ・時差出勤の活用 ・在宅勤務の活用 ・別室活用</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B, 研究室・執務室・事務室での活動参照)</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・活動前の健康チェック(倦怠感・息苦しさ・発熱がないことの確認)及び新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、課外活動の実施</p> <p>★許可制 &lt;活動前の健康チェックの徹底&gt; &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙C許可基準参照)</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、必要な会議の実施 ・メール・オンライン会議中心 ・対面会議を実施する場合は、一居室の人数を抑制</p> <p>&lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・不要不急の出張・旅行の禁止</p> <p>★出張：許可 ★旅行：届出</p> <p>*本学に通勤する居住地に戻ってから2週間は自宅からの外出自粛・在宅勤務を当面求めます。</p> <p>&lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p>	<p>●一部制限 &lt;学生・教職員&gt; ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、施設利用・構内入構 *公共交通機関利用も可 &lt;学外者&gt; ・原則、施設利用・構内入構禁止 ・ただし、大学の機能の維持、教育研究活動の継続等に必要な物品の納入、工事施工、取材等は構内入構を認めることができる。</p> <p>&lt;図書館、研究所、センター&gt; ・新しい生活様式等の実践・励行の徹底し、施設利用再開</p> <p>&lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B, D参照)</p>
2.5 (中高度警戒) 5/20~5/31	<p>●遠隔授業のみ ・学生の皆さんは、原則、自宅で遠隔授業を受講</p> <p>★授業開始日を5/11まで延期 ★5/11から遠隔授業(オンデマンド)を開始(5/29まではオンデマンドのみ)</p>	<p>●原則、大学内での活動の中止 ・在宅勤務を積極的に活用しオンライン活用による必要な活動の継続</p> <p>●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。</p> <p>・研究室所属学部学生については、週半分程度として、研究室責任者(教員)の判断とする。</p> <p>・なお、教員・研究員、博士・修士学生は特に制限はなしとする。</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B, ガイドラインたたき参照)</p>	<p>●原則、大学内での活動禁止 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続</p> <p>●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B, ガイドラインたたき参照)</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・一居室での人数を減らすなど、新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、必要な業務の継続 ・時差出勤の活用 ・在宅勤務の活用 ・別室活用</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>(別紙B, ガイドライン研究室・執務室・事務室での活動参照)</p>	<p>●活動禁止</p>	<p>●原則、メール・オンラインによる会議の実施</p> <p>●ただし、やむを得ない事情がある場合、緊急性を要する場合は、数名程度で新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、対面会議も可能とする。</p> <p>(別紙3参照)</p> <p>★届出制 &lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p>	<p>●感染拡大防止措置の上 ・海外及び特定警戒都道府県(跨ぐ場合含む)の出張・旅行の禁止 ・上記以外の不要不急の出張・旅行の禁止</p> <p>★出張：許可 ★旅行：届出</p> <p>*本学に通勤する居住地に戻ってから2週間は自宅からの外出自粛・在宅勤務を求めます。</p> <p>&lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p>	<p>●一部制限 &lt;教職員&gt; ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、施設利用・構内入構 *公共交通機関利用も可 &lt;学生&gt; ・研究室等における教育研究活動、就職指導等に限り、入構可 *公共交通機関利用も可 ・学生宿舎に入居者は、不要不急の施設利用は禁止(食堂等、散歩等は可) &lt;学外者&gt; ・原則、施設利用・構内入構禁止 ・ただし、大学の機能の維持、教育研究活動の継続等に必要な物品の納入、工事施工、取材等は構内入構を認めることができる。</p> <p>&lt;新しい生活様式等の実践・励行の徹底&gt;</p> <p>&lt;図書館、研究所、センター&gt; ・新しい生活様式等の実践・励行の徹底し、施設利用順次再開</p> <p>(別紙B, D参照)</p>

★届出制、許可制の流れ→研究室等(研究指導教員等)→系・研究所長、センター長→研究担当事務・教学担当事務、事務関係は課長→次長→局長、課外活動関係は顧問→担当副学長、出張等は当該者→所属長等(命令権者)

●教員系の非常勤職員は、教員個人の研究活動、研究所、センターの活動、事務局系の非常勤職員は、事務職員の業務に準じてください。

<p>(別紙A, 新型コロナウイルス感染症予防及び拡大防止のための授業等の実施にかかる方針について抜粋) *新たな生活様式等の内容を踏まえて一部見直し予定</p> <p>1. 【基本的な感染症対策, 感染防止の考え方及び授業等実施の要件】  授業等を実施する場合においては, 3つの条件(①換気の悪い密閉空間, ②多くの人が密集, ③近距離での会話や発話)が同時に重なることを徹底的に回避する対策が不可欠である。このため, 授業等の実施については, 原則として以下の要件を満たすこととする。  (1) 換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底  対策: 授業中30分に1回は換気する(窓及び反対側扉の両方を10分以上開ける。)  90分授業の中で30分に1回程度, 休憩時間を設け換気を実施する。(休憩時間分の講義の延長は不要)</p> <p>(2) 多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮  対策: 教室の収容定員に対して受講者の割合が概ね60%程度であること。一定の間隔を空けて座席を確保できること(概ね1つおきに着席させる)。</p> <p>(3) 近距離での会話や大声での発生をできるだけ控える  対策: 飛沫を飛ばさないよう可能な限りマスク(手作りマスクやタオル等を巻くなどでも可)を着用する。マスクを着用していない場合は, ディスカッション形式の授業は行わないこと。  対面授業における留意事項  接触感染しないための工夫  対策: 授業で使うもの(マイク, 筆記具, 情報機器等)は共有させないこと。  授業等終了後の工夫  対策: 教室等に留まらず, 自宅での事前・事後学修を行うよう指導すること。</p> <p>(4) 手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策の徹底  対策: 講義室等入室前の手洗いや手指消毒を徹底する。講義棟付近への簡易手洗い(屋外)の設置, 各教室等へのポスターによる感染症対策の周知徹底</p>	<p>(別紙B)</p> <p>●研究室・執務室・事務室での活動  ○一般的な感染予防策(接触・飛沫感染防止策)の徹底  ・在宅勤務(テレワーク)の推進  *スタッフの午前と午後で交替や, 曜日毎にローテーションで活動等の実施(出勤者・出勤時間の合計の削減)  ・セミ等は当分の間, オンラインで実施  ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1mは空ける。))  ・会話をする際は, 可能な限り正面を避けること。  ・外出時, 屋内, 会話時はマスクの着用  ・手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと。(手指消毒薬の使用も可)  ・こまめな換気の実践(実験等の性質も考慮しつつ, 換気設備を適切に運転, 2つの窓を同時に開けるなど)  ・咳エチケットの実践  ・3密の回避(密集, 密接, 密会)の徹底  ・毎朝, 体温測定, 健康のチェック。  ・施設(ドアノブ・エレベータボタン等)の消毒  ・症状(発熱や風邪症状等)のある者の入場制限(検温の積極的実施, 体調不良時の出勤回避, 個人情報の取扱に十分注意しながら入場者等の名簿を適正に管理)等  ・押印や署名に代えてオンラインでの手続きの活用  ・外部業者等との接触を減らすため, 納品や検収は物品検収室で主に対応(物品検収室は透明ビニールシート等で遮蔽し対応)  ・窓口等では透明ビニールシート等で遮蔽し対応  ・ネットワーク環境の最大限活用(ネットワーク環境を保有していない人の開放等)  ・スタッフが他者との接触を極力避けられるエリアの設置など, 可能な限り研究活動に専念できる環境の整備。  ・オンラインの活用に当たっては, 情報セキュリティ対策に留意。  ・職場への出勤は, 在宅勤務, 時差出勤, 自動車・自転車, 徒歩等による接触機会の低減(県外からの職場への出勤含む(外出自粛の協力要請の対象外))</p>	<p>(別紙C)</p> <p>&lt;許可判断基準&gt;  ①基本的感染対策が活動団体内で周知・徹底されているか  ②活動内容・活動人数・活動場所の設定にあたり, 基本的感染対策が十分に勘案され, 具体的に示されているか  ③担当顧問との相談の上, 申請がなされているか  &lt;基本的感染対策&gt;  1. 次のいずれかに該当する場合は本学健康支援センターに報告するとともに, 帰国者・接触者相談センターに相談, 課外活動には参加しないことを課外活動団体構成員全員が共有し, 実践すること  ・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)・高熱等の症状がある  ・上記以外で発熱や咳など比較的軽い症状が続く(特に4日以上続く場合は必ず)  2. 1人ひとりの基本的感染対策を実践すること  ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1m))  ・屋外活動の優先  ・可能な限り真正面を避けた会話(大きな発声を伴う活動は基本的に不可)  ・課外活動時のマスク着用(活動内容による)  ・帰宅時の手洗いの実施(手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと(手指消毒薬の使用も可))  ・感染流行地域からの移動, 感染流行地域への移動の自粛(感染地域状況の確認)  ・行動履歴の記録(発症したとのため, 誰にどこであったかをメモ)</p> <p>3. 日常生活を営む上での基本的な生活様式を実践すること  ・こまめに手洗い・手指消毒  ・咳エチケットの実践  ・こまめな換気の実践  ・「3密(密集, 密接, 密会)」徹底回避  ・毎朝の体温測定, 健康チェック</p>
<p>(5) 風邪等の症状がある場合の取扱い  対策: ・咳, のどの痛み, くしゃみ, 鼻水, 鼻づまり, 頭痛, 発熱, 喉のかれ, 腹痛, 下痢, 筋肉痛など, 普段通りではない体調の変化・違和感を感じた場合には, 出校させない。  これにより授業を欠席した場合は後日, 補講・追試の実施, 授業中に課すものに相当するレポート課題等を実施し, 欠席扱いとしないなど不利益にならないよう配慮する(履修上の配慮)。  ・必要に応じて授業資料等(説明文章付きPPT・PDF ファイル等)を作成し, Moodle等に掲載する。  (6) 新型コロナウイルスに罹患した(おそれのある)場合  対策: ・発熱や咳等, 体調の悪い場合には大学へ出校させずに自宅で療養させる。出校後に症状が出た場合には, 必ず教務課教務係に電話連絡し, 速やかに下校させ自宅で療養させる。いずれの場合も上記(5)の履修上の配慮を行う。その後の経過についても同様に毎日電話連絡する。  ・新型コロナウイルスに罹患した学生, 海外から帰国・入国後2週間の経過措置中の学生及び入国できない学生は, 入院又は出校禁止(自宅療養)としていることから, 当該学生には上記(5)の履修上の配慮を行う。</p> <p>2. 【基本的な感染症対策, 感染防止の考え方の徹底及び授業等実施の要件】を満たすことが困難な場合  (1) 様々な工夫によって, 1. 【基本的な感染症対策, 感染防止の考え方徹底及び授業等実施の要件】が保たれた環境を確保する。  例えば  *同じ講義を2クラスに分け, 2名の教員で同じ内容の授業を行う。  *同じ講義を2クラスに分け, 1のクラスは違う時限で実施する。  *A1-101, A2-101で同じ授業を遠隔講義により実施する。  *隣の人との距離の確保が困難など, 1. 【基本的な感染症対策, 感染防止の考え方徹底及び授業等実施の要件】を確保することが困難な授業等では, 例えば次の工夫などで授業受講者を半分に縮小しつつ, 通常の授業計画のスケジュールで授業を進める。  →受講者を名簿順によって半分に分け, 学生は隔週で講義に出席する。授業に出席している学生は通常の授業を受講する。授業に出席していない学生に対しては, 教務情報システム, Moodle(e-learningシステム)等で課題を課す(次週に小レポートを提出する), Moodle等に示されたパワーポイント資料あるいは教科書, 配付資料に従って学習させる。次週は授業出席者を入れ替えて授業を行う。このような方法を2回繰り返す。ただし, 第1週目の授業は, 全受講者を対象として授業の進め方などを説明し, 短時間で終了するものとする</p>	<p>●実験施設・設備の利用について  ・実験施設・設備の利用は最低限に留め, データ解析等は在宅で行う。  ・「三つの密」を避けるための運転計画, 施設利用スケジュールの構築(施設内の密を避けつつ, 短時間の実験を継続する等)  ・研究設備や備品について, 端末操作画面やスイッチ, ドアノブやトイレなど複数の人の手が触れる場所を必要に応じて消毒。また, 実験等の性質も考慮しつつ, ドアを常時開放するなど, 人の手が触れる場所を少なくする。  ・安全管理等の理由により, 複数の人が同時に操作を行う必要がある研究施設や設備等においては, マスクの着用, フェイスシールドの着用, またはアクリル板・透明ビニールカーテン等による遮蔽等の措置。  ・単独で長時間の実験・施設利用を行う場合は, 利用開始・終了の声掛けや記録, 事故時の連絡手段の再確認など, 万が一の事故に備えた安全対策の構築。  ・実験動物, 遺伝子組換え生物(微生物, 植物, 動物), 病原性微生物や放射性物質を使用する研究の場合, 機関管理のもと, 関係法令等を踏まえ適切に実施。  ・設備の遠隔利用や研究代行等の取組を積極的に実施するとともに, 機関内外の遠隔利用サービス等を積極的に利用。  ・講義のオンライン化等に伴い空いている教室や実験・実習室等がある場合には, それらを積極的に活用。</p>	<p>(別紙D)</p> <p>&lt;教職員, 学生&gt;  ①次のいずれかに該当する場合は帰国者・接触者相談センターに相談, 本学健康支援センターに報告し, 出勤, 出校しない。  ・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)高熱等の症状がある場合は自宅  ・重症化しやすい方(基礎疾患がある方や透析を受けている方, 免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方)で, 発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状のある場合  ・上記以外で発熱や咳など比較的軽い症状が続く場合(特に4日以上続く場合は必ず)  ②上記以外の発熱又は風邪の症状がある場合は, 無理をせず自宅で療養  ③1人ひとりの基本的感染対策の実践。  ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1m)空ける。)  ・会話をする際は, 可能な限り正面を避ける。  ・外出時, 屋内, 会話時はマスクの着用  ・手洗いは30秒程度かけて水と石けんによる手洗いの徹底(手指消毒薬の使用も可)  ・感染が流行している地域からの移動, 感染が流行している地域からの入構は控える。  ・地域の感染状況に注意。  ・発症したとのため, 誰にどこであったかをメモ。  ④日常生活を営む上での基本的な生活様式の実践。  ・咳エチケットの実践  ・こまめな換気の実践  ・3密の回避(密集, 密接, 密会)の徹底  ・毎朝, 体温測定, 健康のチェック。</p> <p>&lt;学外者&gt;  ・教員との共同研究, 就職相談等は原則, オンラインによる。  ・業者等の物品納入, 工事施工, 取材等に係る入構で室内の長時間滞在者は, 可能な限り, 体調のチェック  ・外部業者等との接触を減らすため, 納品や検収は物品研修室で主に対応(物品研修室は透明ビニールシート等で遮蔽し対応)  ・窓口では透明ビニールシート等で遮蔽し対応</p>